

錠前のご使用についてのお願い

錠前を正しく動作させるために

錠前を正しく動作させて本来の性能を発揮させるため、建具について次の点をご留意いただきますようお願い申し上げます。

1. 扉の錠前取付部には補強を入れてください。
レバーハンドルの丸座のように扉の両側からビスを締付けて取付ける場合に扉の変形による錠前の不調を避けるためです。
2. 枠にはコンクリートボックスを設けてください。
枠に電気ストライクやスイッチストライクなどの電装品を取付ける場合に、モルタルなどが侵入して誤動作の原因となるのを防ぐためのものです。

逆マスターシリンダーをご使用の場合のお願い

集合住宅の共用玄関などに逆マスターシリンダーをご使用の場合は、シリンダーの使用頻度が通常のシリンダーに比べて大幅に増えるため、耐用年数も短くなります。
ご使用になる場合はあらかじめ予備のシリンダーをご発注いただく等の対策を取っていただきますようお願い致します。

錠前の主な材質の特徴と日常のお手入れについて

錠前の主な材質の特徴と日常のお手入れについて

ステンレス製品について

ステンレスは、鉄やアルミニウムに比べて、はるかに耐食性に優れ非常に錆びにくい金属です。ステンレスが錆びにくいのは、含有されるクロムが酸素と結合して、地金の表面に100万分の数ミリの厚さの強固で緻密な不動態皮膜を形成し、この皮膜が錆を防ぐ働きをするためです。従って、ステンレスの錆は「何らかの原因により不動態皮膜が破壊され、その再生が妨げられる」ときに発生します。しかし、腐食原因が除去され、クロムと酸素の結合が可能になれば、不動態皮膜は再生され、耐食機能を取り戻します。

ステンレスの錆の原因はさまざまですが、ほとんどの場合、空気中に浮遊する鉄粉や有害ガス中の成分付着、堆積、あるいは潮風に含まれている塩分の付着などがあげられます。これらの付着物が核となり、湿気が加わって固着し、ステンレス表面の不動態皮膜を傷つけ、またその再生を妨げているため、錆が発生します。

このほかに、それ自身は不動態皮膜は破壊しませんが、表面への酸素の供給を妨げたり結露や上記物質の付着を促進するものとして、ススや粉塵、よごれなどのステンレス表面への堆積があげられます。

当社のハンドル、シリンダー、フロント等の外装部品についてはステンレスの中でも耐食性に優れたSUS304を使用していますが、上記のようにステンレスといえども全く錆びないわけではなく、使い方や、使用場所によっては錆びることもあります。

しかしながら、錆の初期の段階なら、市販の台所用の清掃剤などを使えば錆は比較的簡単に除去でき、元通りの表面状態に戻ります。

アルミ製品について

アルミはステンレスと同様にその表面に緻密な不動態皮膜ができ、地金を腐食から守る働きをします。アルミの場合、不動態皮膜はステンレスほど強固なものではないため、アルミを建材として使用する場合には、アルマイトや塗装などの耐食性を高める処理をします。

アルマイトとは、酸化皮膜を人工的に厚くし耐食性を上げる処理で、さらに酸化皮膜を着色することにより各種の色調を得ることができます。アルミ製品の場合にもステンレス同様、有害ガス中の成分付着、堆積、塩分の付着、ススや粉塵、汚れなどの付着により、腐食が発生することがあります。また、アルカリ性の薬品（洗剤、セメント、モルタルなど）を付着したままにしておくと、表面が白く脱色してしまうことがあります。ステンレスと異なり、アルミの場合には一度腐食や脱色が発生してしまうと元通りの外観に戻すことができません。

黄銅製品について

黄銅は鉄のように錆びてボロボロに腐食することはありませんが、素材のままでは容易に酸化し、短期間に表面が黒く変色します。そのため、一般的には塗装をして変色を防止しています。しかし、塗装に傷がついたり、摩擦等により塗膜がなくなってしまった場合や、ステンレスやアルミの場合と同様に有害ガス中の成分付着、堆積、塩分の付着などにより変色が発生することがあります。黄銅の場合は特に、結露や腐食物質の影響を受けやすく、汚れやホコリなどの付着は変色の発生を早めることとなります。

黄銅の場合にも、一度変色が発生してしまうと塗装があるために磨くことができませんので、元通りの外観にすることはできません。錠前をいつまでも美しくお使いいただくためには、いずれの材質のものについても、錆が発生する前に定期的にお手入れを行っていただくことが肝心です。お手入れの方法については、通常は柔らかい布等で乾拭きする程度で十分ですが、汚れが目立つ場合には中性洗剤を使って汚れを落としてください。

清掃の頻度について

建物の置かれた環境や部位によって異なりますが、

- | | | |
|----------|--------|-----------|
| ① 田園地帯 | 2～3回/年 | |
| ② その他の地域 | 3～4回/年 | が目安となります。 |

ただし、海岸地域で海塩粒子の飛来が多い地区、鉄道路線や鉄工所の近傍で鉄粉の飛来が多い地区、火山灰の降ることのある地域などでは、さらに清掃頻度を増やすことが望まれます。比較的緩い腐食環境においても、軒下など汚染物質がたまりやすい部位については、清掃回数を増やすことが必要となります。

また、黄銅製品はステンレスや、アルミ製品に比べて変色が発生しやすいので、さらに清掃頻度を増やす必要があります。